

ちこり村 訪問記

大橋 しのぶ



あの建物は何？

「木曾路はすべて山の中である」という冒頭で始まる小説は、島崎藤村によって書かれた有名な「夜明け前」ですが、その木曾路の出発地あり終着地でもある岐阜県中津川市が私の母の出身地です。

今年の四月、久しぶりに母と祖母の墓参の為に中津川に行った帰り道、中津川インターから高速道路に乗る直前、突然正面にバーンと大きくその建物は見えてきました。

「ねえねえ、何あの蔵？前からあんな建物あったっけ？」と私も、

「えー、知らない。昔はなかったよ。ちこちこ？美濃ちこり焼酎？聞いた事ないけど。」

「面白そうだから、次回はあそこに寄ってみようよ。」と、そんな会話がありました。

帰宅後、さっそくネットで調べてみると、そこはただ単に美濃焼酎の酒蔵というだけでなく、ちこりという西洋野菜の日本一の栽培



施設である事が分かりました。更にそこはレストランあり、お土産屋あり、イベントホールありという農業・商業・観光・文化活動を一体化させた一大観光施設だったのです。

「ちこり村」という名称のその施設ですが、本当に様々な要素が詰まっているので、概要を理解するのにしばらくくりサ
ーチが必要なくらいでした(笑)。

更に調べていると、そのちこり村では、まほろばの宮下社長と親しい発酵学者の小泉武夫先生の講演会を定期的に行っている事が分かりました。

そして何とその小泉先生に連れられて、昨年三月に、ちこり村(サラ

ダコスモ社)の中田社長が、まほろばを訪問している事も分かったので

す。これには本当にびっくりしました!

以下、太字は、まほろばブログ

(二〇一六年三月一三日)より転載。



モンゴル塩でお馴染みの岐阜恵那の「木曾路物産」。

その鹿野社長から、以前から同郷中津川でもやしを作られている親友・中田智洋社長のことを聞かされていた。

何年か前、そのチコリ館や工場も見学させて頂いていたが、まだ社長にはお目にかかっていたいなかった。

パラグアイで大豆農場があり、その大豆で豆腐を作り、あの東日本大震災の際に、何万丁と被害地に届けられたのだ。次亜塩素酸を使うもやしを、無漂白にした立役者こそ、中田社長で、それを実現させたのがモンゴル塩だったのだ。今ではオーガニック認証まで取得されたとの事。

さらに、あらゆる豆のもやしを作られて、ついにはチコリのお酒まで作られるに至った。先日、小泉先生から、社長が来札されるので、まほろばと一緒に立ち寄られる旨を伝えられた。何

でも、今や一〇〇億円の売上高に達するほど、急成長を遂げられたとの事。

お会いするや、ご夫婦して、大変頭が低く謙虚であられることに感銘したのです。

仏教大学を出られ、お母様の「感恩報謝」のみ心が生きておられたのです。

志は、気宇壮大にして、歩むはモヤシの一袋から。実に堅実にして、遠大である。これからの、益々のご発展を祈る次第であります。

〜転載ここまで〜



ちこり村訪問記



ちこり村初訪問

十月某日、再び中津川市を訪問した母と私は、帰りがけにちこり村でモーニングを食べる事にしました。

ちこり村のレストランである「バーズダイニング」は農家手作り家庭料理レストランと称して、ちこりは勿論の事、地元農家の新鮮野菜をふんだんに使ったビュッフェ料理が楽しめるのです。特に人気なのがランチビュッフェで、一五八〇円で八十種類以上の料理やドリンクを堪能できるとあって、県外からもリピーターが訪れ、行列になる事もしばしばだそうです。今回は小食な母に合わせてモーニング（五百円）をチョイスしましたが、何とこの金額でパンかご飯プラスお惣菜の盛り合わせ、スープと発芽野菜の食べ放題、デザートとドリンクまで付いていておなか一杯。申し訳ないくらいお得なセットでした。次回からホテルは素泊まりにして、モーニングかランチはちこり村で食べようと思えました（笑）。

その日は西

の方から台風が迫ってきている事もあり、また早朝でもあったせいか割と店内は空いていました。

そして私が物珍しく店内を散策している間や、親戚と一緒にモーニングを楽しんでいる時に、ある男性が椅子を運んだり清掃道具を手にして、店内を行ったり来たりするのに何回かすれ違いました。

「何だかあの方、写真で見た中田社長に似てらっしゃるけど、まさかねえ？」と思い、食事を終え、さあ買い物をして帰ろうかと思っていた時に、再びその男性が目の前に現れ、目が合ったので思わず、「あの、失礼ですけど中田社長ですか？」と聞いてしまいました。するとその方は、

「ははは（笑）。似ていますか？」と笑って答えられたので、「しまった。やっぱり人違いか！」と慌て



ましたが、気さくに冗談をおっしゃられたその方が、やはりちこり村（サラダコスモ社）の中田社長ご本人でありました。

「台風が接近しているために、神奈川県から二台来る予定だった観光バスが急遽キャンセルになって時間が空いたので、今日は椅子でも磨こうかと思って作業をしていたのですよ。」との事でした。私はまさか社長自ら、こんな早朝からせっせと掃除をしているとは思わなかったのです、思わず「別人かな？」と思ってしまったのですが、この姿勢がサラダコスモ社を一代でこまでの大会社にした所以の一つなのだと後から徐々に分かってきました。

中田社長のお言葉

中田社長は初対面にも関わらず、ちこり村の事などを色々説明してくださいました。その中でも私が特に印象に残った中田社長のお言葉をいくつかご紹介させていただきます。

①「この施設はちこり村と名乗っていますが、本当は佐藤一齋館としたいくらいだったのです。」

佐藤一齋は江戸時代後期の儒学者で、中津川市の隣町である恵那市の出身です。門下生には幕末の学者である佐久間象山らがお

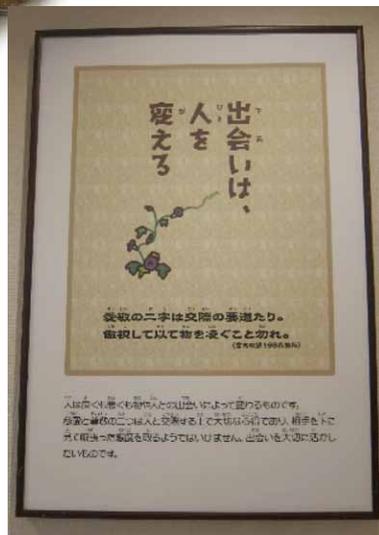
り、その著書「言志四録」は維新志士の吉田松陰や西郷隆盛にも大きな影響を与えたそうです。中田社長は郷土の偉人である佐藤一齋の事をもっと人々に知ってもらいたいという篤い志を持たれていらつしやって、何とちこり村の壁にはあちこちに「言志四録」の言葉を分かりやすく書き直したパネルが貼られています。

そして、店内にはそのパネルを絵本にした、「親子で読む『言志四録』おじいちゃんとおぼく」佐藤一齋さんからの伝言」が販売されています。

私はそのパネルを眺めて「良い言葉だなあ」と思い、店内で



パチパチと写真を撮り回っていたので、絵本になっているのを知って喜んで買って帰りました。一ページ一ページに、はつと気が付いたり心が癒されたりする言葉が優しく紹介されていて、大人が読むにもお勧めの絵本です。





② 「中津川市は過疎と高齢化がどんどん進んでいるので、地域の活性化の為に、あえて六〇歳以上の方の雇用を積極的に進めています。」

おっしゃる通り、店内には六〇歳以上と思われるスタッフの方々が大勢働いていました。そしてみんなニコニコ生き生きとしているのが印象的でした。ちこり工場やちこり焼酎の酒蔵を見学させていただいたのですが、ガイドの方も「ちこり村では六〇歳が一年生なのですよ。私はまだまだひよっこなんです。」と明るく話して下さいました。

③ 「それまでは捨ててしまっていたちこりの根っこを何かに使えないかと思つてちこり焼酎を開発したのです。」

ちこりの根っこはその形状からちこり芋と呼ばれています。そこで中田社長は鹿児島焼酎の酒蔵に、ちこり芋から焼酎が出来ないか相談したところ、数週間でちこり芋から焼酎ができると返事がきたそうです。それからわずか二年でちこり村に蔵を建てちこり焼酎の製品化に成功したというのですから驚きです。西洋では捨ててしまつているちこりの根っこを使つて本格的な焼酎を作ってしまった事は、本場であるオランダやベルギーの生産者をも大いに驚かせたという事です。

④ 「ところでお母さん、腰をどうしたのですか？」

母は立ち話の途中で、持病の腰痛が起こり、「すみません、ちょっと腰が痛くなつて、座らせていただいて宜しいですか？」と言つて、



椅子に座らせていただき、引き続きおしゃべりをつけていたのですが、中田社長はそれを見逃さずに、最後に母にこう問いかけて下さいました。

母が長年腰痛を患っている事、最近を外出も少なくなり更に筋力が落ちて長時間間立っていられなくなつてしまつた事などを話すと、中田社長はご自分の体験談を語って下さいました。

「自分も一〇年くらい前に膝を痛めてしまつて、歩くと痛くて困つてしまつた事があつたのですよ。」



そこで大学の同級生に接骨院をやつていのがいたので診てもらつて、そいつに足に合う靴とインソールを作ってもらつたら、それがすごく良くて、どんどん歩けば歩くほどに膝も良くなつて、今ではすっかり治つてしまつたのですよ。あまりに良かったので、その友人

を会社に呼んで希望する従業員全員にインソールを作ってあげたくらいです。やはり足に合った靴でどんどん歩いたほうが良いですよ。」

母は重い靴を嫌がって、いつも薄いビニール靴を履いていました。娘から見ても腰に良くなさそうな造りですし、私がいくらウォーキングを勧めてもあまり乗り気になつてくれなかったのです。

それは置いておくとして、私は中田社長が従業員にもインソールを作ってあげた話にびつくりしました。

六〇歳過ぎると足腰が痛くなる人も多いでしょうし、販売業は立ち仕事なので、さぞかし皆さん喜ばれた事と思います。ちこり村で働いている従業員の方が元気で幸せそうな理由がほとんど分かってきました。

そして更に詳しくお話しをお聞きしたところ、何とその接骨



院が私達の神奈川県の自宅から車で二〇分三〇分の鎌倉市にある事が分かり、ご紹介いただけ事になりました。日本も広いというのにホントに人と人はどこでどういご縁で繋がっているか分からないものですね。その後さつそく

その池田接骨院を訪れ、池田先生から歩き方のアドバイスを頂き、インソールを作ってもらった母は、やっと毎日少しずつウォーキングをしてくれるようになりました。私

がいくら進めても駄目だったのに(笑)。中田社長と池田先生には本当に感謝です。

母のちよつとした言葉を聞き逃さずに「お母さん、腰をどうしたのですか？」と聞いて下さった中田社長のお声がとても有難く、今でもずっと耳に残っています。

トイレ掃除で入社式

サラダコスモ社では、もう二〇年も入社式の後で、中田社長みずからその年の新入社員を引き連れて、公衆トイレの掃除を行っています。

まず最初に中田社長は、ひとりひとりの顔を見ながらこう語りかけます。

「トイレが汚いのは汚す人がいるから。トイレがクサイのは掃除がしつかりされていないから。芳香剤はすぐに捨てて下さい。強い匂いでごまかしているだけだから。根本の解決をせずにごまかす人は会社をダメにする。」

柄のついたブラシで掃除しても柄の長さの分だけ汚れから離れている。素手で汚れに顔を近づけて本当の汚れの原因が見えてくる。一見綺麗に見えても触ってみるとまだザラザラしているな、とか五感で感じることを大切に。

きたないものにフタをして見てもみないフリをしない。一番触れたくないものをキチツとする。トイレ掃除をする人は、トイレ



を汚さない。トイレを汚す人はトイレ掃除をしたことがない人。」

そして便器に顔を突っ込まんばかりにして、掃除の仕方を教えるのです。

新入社員達はそんな社長の言葉と体当たりの姿勢に触発されて一心不乱にトイレの掃除を始めます。やがて薄汚れていた公衆トイレは高級ホテルのようにピカピカになるのです。

中田社長はこう締めくくります。「トイレ掃除をしてもらって嫌がる人はいない。自分の周りの人が喜ぶと自分も幸せな気持ちになれる。」



る。この幸せになるカラクリに早く気付いてほしい。もし、先輩によくしてもらってうれしかったらキミは後から来る後輩に優しくするだろう。そして、その後輩はさらに後輩に同じことをしようとするそれが社風になる。

トイレが綺麗な会社に悪い会社は無いはず。」

初めてお目にかかった日、みずから掃除道具を持って、せつせと



椅子磨きをされていた姿にはこんな背景があったのです。もちろんちこり村のトイレもピッカピカでした！

宮下社長の講演会！

そんなちこり村で、来たる二月一七日に宮下社長の講演会が開催される事になりました！
私がいつか母の郷里の中津川で



宮下社長の講演会を開催できたらという夢を語ったところ、中田社長は「いいですね！私が後援しますよ。」と二つ返事で答えて下さいました。「出会いは人を変える」というパネルの前で初めて中田社長にお目にかかって、二時間もしないうちの出来事でした。本当に出会いは不思議なものです。あの日、中津川インターから帰らなければ、そしてこの日も台風が迫って観光バスのキャンセルが無かったら、こんな展開にはならなかったのですから。

中田社長と宮下社長はオーガニックや儒学という要素の他にも、「母が子を思う心」「望郷の気持ち」というキーワードなど共通項が多いなあと感じておりました。

講演会のタイトルは「日本力―情緒と日本人―」です。きつと素晴らしい講演会になると思っており、なかなか岐阜県まではこれられないかもしれないです



が、また改めてまほろば便りで講演会のご報告をさせていただきますと思っています。

そしていつか岐阜や木曾路などに来た際はぜひ一度、この素晴らしいちこり村を訪問されてみてください。まだまだ語りつくせない素敵な物語がたくさん詰まっています。ここを訪れると元気で幸せな気持ちになる事、まちがいありません！

二〇一七年二月一八日

大橋 しのぶ

ちこり村・大ホール 特別講演会

無料
ご招待

今だからこそ伝えたい！
日本人が忘れかけている
情緒のこころと力。

国内における自然食品の名店、札幌「まほろば」社長である宮下周平氏が語る情緒の世界。日本の誇る大数学者、岡潔から直接学んだ情緒の心とは？

2018
2/17 14:00 ~ 16:00
SAT

参加費：無料

ところ：ちこり村大ホール

定員：先着 100 名様限定です。

お電話か FAX にてお早めにお申し込みください。

主催：ふるさと木曾路を偲ぶ会 後援：株式会社サラダコスモ

日本力・につぽんりよく
情緒と日本人

